

会 議 録

会議の名称	第3回豊中市環境審議会（第11期）		
開催日時	平成28年10月28日（金）午前10時~12時		
開催場所	豊中市役所第二庁舎3階大会議室	公開の可否	㊦・不可・一部不可
事務局	環境部環境政策課	傍聴者数	2人
公開しなかった理由			
出席者	委員	上甫木委員、猪井委員、大久保委員、下田委員、木村委員、吉村委員、窪委員、野村委員、田中伸生委員、熊本委員、廣田委員	
	事務局	脇山環境部長、井藤環境部次長、勝井環境事業長、柿本環境部参事、澤坂環境政策課長、吉村減量推進課長、中村公園みどり推進課長、三川主幹、安好主幹、高田課長補佐、樋上課長補佐、大西副主幹、藤岡副主幹、石村係長、奥田係長、小林主査、槌谷主事、辻岡一般職非常勤職員	
	その他	(株)総合環境計画	
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次豊中環境基本計画の策定について ・その他 		
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1：第3次豊中市環境基本計画の構成の考え方について ・資料2：現行計画における環境目標及び指標の課題整理 <p>(参考資料)</p> <p>参考1：第3次豊中市環境基本計画構成(案)イメージ 参考2：第3次豊中市環境基本計画策定に向けて 参考3：他市の環境基本計画 参考4：推進部会での意見と指標例</p> <p>(当日配布資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第3次豊中アジェンダ21」策定の進捗状況 ・子ども(次世代)ワークショップについて ・現行の環境基本計画の施策・指標のうち活用が考えられるもの 		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

○開会

資料の確認

委員の出席状況と会議成立の報告

議事内容

1. 第3次豊中環境基本計画の構成の考え方について

○会長

第11期の第3回環境審議会の審議を進めたい。次第に沿って、まず第3次豊中市環境基本計画の策定について、事務局から案件の説明をお願いしたい。

○事務局

(資料1(第3次豊中市環境基本計画の構成の考え方について)に基づき説明)

○会長

これまでの振り返り、現状の課題、これからの計画策定の方向性ということで説明があり、この次の段階ということで、今日は具体的な構成の中身について議論を進めていきたい。推進部会での意見と指標例について、参考資料4(推進部会での意見と指標例)に記載の内容となっているが、事前にお目通しいただいているかと思うので、このあたりをふまえて議論を進めていきたい。そのなかでの大きな方向性としては、目標1から目標5については、これを変更するというご意見が、先の委員会でも審議会でもなかったもので、今回、具体的な評価指標を数値化していこうということが非常に重要と考える。基本的には、現行の目標1から目標5をふまえて議論をするということではどうか。さきほど説明していただいた内容について各委員からご意見、ご指摘をいただきたい。

○委員

一つは簡単な意見だが、「望ましい環境像」のイメージのところ、「望ましい環境像」の策定プロセスが分かるよう、市民ワークショップで出た意見云々を併記するとある。意見を併記することはよいと思うが、その意見を書くことで策定プロセスが分かるというものではないと思う。そこの考え方だけは確認をしておきたい。

もう一つ質問だが、資料1(第3次豊中市環境基本計画の構成の考え方について)の第2章で、総括は第2回環境審議会資料1(第3次豊中市環境基本計画策定にむけて)を参考としながら、という説明があったが、そこには市民意識調査の結果等も含まれるのか。これは、調査のなかで関連するものをひとまとめにされていると思うが、例えば、みどりのところはみどりの基本計画だけで市民アンケートが別にあると思うが、そこの兼ね合いはどうなっていくのか。もし、そもそも全く盛り込まないというなら別だが、どういう関係になっているのか確認したい。

○会長

参考1(第3次豊中市環境基本計画構成(案)イメージ)の4ページの「望ましい環境像」の箇所、市民ワークショップ、子どもワークショップで出た意見を併記するということだが。

○委員

併記はよいと思うが、それが併記することで策定プロセスが分かるというものではないのではないか。逆に策定プロセスというのはなかなか示せるものではないので、こういった意見が出ているというところで結局とどまるのではないかと思う。それで策定プロセスを示したというのは言い過ぎなのではないか。

○会長

事務局の考えは。

○事務局

市民からいただいた意見と、「望ましい環境像」のイメージが直結するののかということ、どういったかたちで策定のイメージを作ったかというプロセスは見にくいと思う。意見の併記にとどまるかと思う。ただ少しでも市民の方からいただいた意見が反映されたというイメージを作っていきたい。

○委員

確認だが、市民ワークショップとか子どもワークショップをこういうふうで開催したとか、そういうプロセスの情報は別のところにきちんと載せるのか。

○事務局

載せていく。

○委員

プロセスはやはりきちんと載せていただきたい。この「望ましい環境像」だけだと、子どもワークショップや、市民ワークショップでやったことがどう反映されたか分からない。そういう感じを絵のイメージとして出したいという趣旨だと思う。

そのことと関連して、子どもワークショップ、市民ワークショップについて、進行状況はのちほど説明があるとして、そこで出たご意見と、めざす「望ましい環境像」とが直結するわけではない。そこをつなぐようなプロセスが多分もう一個要る。つないでいくプロセスがあって初めて、つながったというかたちになる。ここはイメージだけの話だからよいが、実際に作っていく過程において、そのプロセスをきちんと示すということが必要である。

○事務局

さきほど委員がおっしゃったプロセスは、今回市民ワークショップでみなさんからのいろいろな意見で、「望ましい環境像」については、そういった意見をふまえながら、豊中アジェンダ 21 の策定委員会で作成され、環境審議会へ提案していくというかたちになっている。ここのイメージというのはあくまでもそういった意見をふまえて、現行計画の 2 ページから 4 ページまで、みなさんからの意見をイメージ化するという感覚で捉えている。委員がおっしゃるその部分の作成プロセスが見られるというのは難しいと考えている。委員がおっしゃる「望ましい環境像」を確定するプロセスを、例えば市民の方に提示して説明するということは、今後、策定を行っている NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 ともお話しさせていただくなかで、この参考資料 1（第 3 次豊中市環境基本計画の構成の考え方について）の 10 ページ、資料編の、市民ワークショップ、中高生ワークショップの経過というところで示してしていけるか検討させていただきた

い。

○会長

プロセスを示すのは非常に重要な話で、いわゆるプロセスプランニングという、要するに10年後の姿があるけれども、一気に飛ぶわけではなくて、どういうステップでいくかということであって、言葉を変えると、最近シナリオ型のプランニングということがあるので、非常に大事な視点だと考える。また、もっと大事になるのは、ここでいま10年後の環境像の策定プロセスを記載するというのは、いままでやってきたことに対して達成されたこととか、新たに課題としてこういうことを認識したとか、そういうことをきっちり書いていくと、非常にうまく表現できるのではないか。突然、計画ができてくるわけではないから、達成されたこととか、さらにバージョンアップしたとか、あるいは新たな視点であるとか、そういうようなことが分かるようにし、さらにこういうことを積み重ねましょうという大きな方向性みたいなものを最初に挙げて、そのあとはそれを具体化するための目標像とか評価指標という、つながりが分かるような、あるいはこれまでの歩みが分かるようにしてもらえるとよいと思う。

○事務局

さきほど委員がおっしゃっていたのは、総括でそういったものを盛り込みながらというイメージか。

○委員

一つはこの計画を作るときの手続的な過程の話と、もう一つは会長がおっしゃったような、その「望ましい環境像」を達成するためにどんなステップがあるかというイメージが分かるように盛り込みましょうということです。どちらも重要な話だと思う。

○会長

宿題が増えたが、よろしくお願ひしたい。それでは2つめの質問についてはどうか。

○事務局

現段階で総括にどういった書き込みをするかというのは、まだ定まっていない。今回策定する環境基本計画については、当初からこの総括の部分が重要と考えており、今後、事務局案を整理しながら、次の環境審議会で示せればと考えている。委員がおっしゃったように、みどりの基本計画等では市民アンケートを実施しており、そういうところのバランスを見ながら進めていきたい。

○会長

それではほかには。

○委員

初めのところで、10年後というのは多分計画期間が10年後だからということだと思うが、いまこれだけ開発がゆっくりになってくると、10年後というのはそんなに変わらない。結局10年後の状態をどう改善したいというよりは、10年間どの方向に向けて頑張るかということだと思う。資料2（現行計画における環境目標及び指標の課題整理）のところで、5つの目標を立ててということだが、いつも環境審議会で問題になるのは、目標

5のところは航空機騒音が基準を満たさないから、「×」だということは出てきてしまうが、これも状態として、10年後に画期的な航空機はもう出てこないだろう。だから、環境基準を満たせないというのは分かるが、環境基本計画でやるべきはそのもっと先に向けて豊中市がどういうことをめざすというか、状態よりは取組みの方法をしっかり書くということかと思う。要するに、その次の環境基本計画の進行管理においては、この状態を、指標の値を見て満たしてない、満たしているというのではなく、その方向に向かって豊中市がなにをしたかということ、少し主観的な要素も入れながら評価していくというような流れにしたらいいのではないか。

○会長

事務局からコメントはないか。

○事務局

資料2(現行計画における環境目標及び指標の課題整理)については、冊子構成のイメージのあとで事務局から説明させていただくので、ご意見いただければと思う。

○会長

具体的な評価指標のところの議論を、これまでの議論も含めて展開していきたい。さきほど指摘いただいた環境基準のところは、100%かそうでないかということでも話題になるが、状態の評価を見るにしても、そのなかでもカテゴリに分かれており、それぞれのカテゴリをしっかりと見る必要があるという話が部会でもあった。そういった評価指標とか、評価のあり方とかを少しここで見直しておく必要があると思うので、なにか具体的なことに関してご意見があればお願いしたい。

○委員

いまの委員のご意見も絡んでいるのかもしれないが、参考資料4(推進部会での意見と指標例)でご説明をいただいたように、10年後ということにこだわらなくてもよいという意見と、10年後を描いておいたほうがよいという意見とあって、そのあたりは新たな環境基本計画を策定していくにあたってははっきりしておかないと、意見を言いにくい。結局、期間としては30年度から39年度と決まっているのに10年後でなくてもよいという意見が出たのがよく分からない。

○会長

あまりきっちりと10年などという期間的な限定をしなくてもよいのではないかということである。それは5年なのか15年なのか、少なくともそんなに長期の話ではないという、それぐらいのニュアンスであった。期間を設けないにしても、突然5つの環境目標から入るのは難しいのではないか。もう少し全体像を提示して、それを達成するための目標という意味での環境像があるという意見であった。ただ、年数については、きっちりと明記しなくてもよいということで。イメージしているところはそれぐらいの時代想定かなと私自身は認識していた。どうでしょうか。ちょっと見解が違ってもよいが。

○委員

おっしゃっていることと同じだが、計画期間は10年と決まっている。しかし10年で達成できることをやろうとすると、ちまちまとしたことしか書けない。10年で達成できなくてもよいから、こういう豊中市でありたい、というような「望ましい環境像」を書

くのであれば、10年後と書いてしまうと、なかなか難しいのではないかという趣旨かと思う。

○委員

さきほど申し上げたのは、そのようなニュアンスであって、例えば温暖化の目標でいえば、2050年に地球全体でCO₂が半減していないとこうなるということで、2030年目標は、2030年までになにをするかという議論になっている。同じように、豊中の計画についてもその少し先にどういうところにいきたいというところを描いて、ただ計画だから10年間に行政としてやることをちゃんと約束するというか、まとめるのが基本計画だから、その方向に向かって10年間なにをしますというふうにまとめるのがよいのではないか。目標像はもうちょっと先に置いておいたほうがよいのではないかというのが、さっき申し上げたことである。

○会長

非常に大切なよい指摘だったかと思う。大きな方向性は目標像で示しながら、近未来というか、10年後に対しては具体的なお約束をするというような方向性でお願いしたい。そのための目標なり評価指標がどうあるべきか、ということと思う。

○会長

さらに発言はあるか。

○委員

全国の自治体の取組みも情報として入ってくる。私ども市民委員の立場からすれば、豊中市が本当にどうなっていくのかというのが、分かっているようで分かっていない。例えば、高齢化とかそういうイメージはあるが、東京のほうでは、人口流出が進むだろうという話が報道でもあって、豊中市としての未来的なイメージというのがどういうものなのか、行政のほうである程度なにか想定はされているのか。そのあたりがあるのとないのとではちょっと違うという気はする。豊中の場合は一般的に住宅都市なので、そんなに変わらない気はしているが、ただこれだけ世の中の変化が早い時代なので、東京などで言われている人口流出という問題も、若者の雇用の問題も含めて豊中としてのイメージをどういうふうに持たれているのか、そういう資料があるのか。すべての分野とは言わないが、そういうものがあれば教えていただきたいと前々から思っていた。

○会長

「望ましい環境像」にかかわる話で、市民参加や子どものワークショップがあるが、そもそも市はなにを考えているんだと、そういう話も当然行政としては打ち出していきつつ、市民意見を反映するというのでいかがか。

○事務局

さきほど委員がおっしゃったように、市の大きな方向性であるとか考え方というのは、市の総合計画に基づいて動いている。総合計画の分野別計画として、都市の将来を考える都市計画マスタープランであるとか、環境のことを考える環境基本計画などが連動しており、総合計画も平成30年度から平成39年度までの10年間という計画で、現在、策定作業が進んでいる。そのなかで街の将来像の素案を考えており、1月のワークショップで、「未来創造都市とよなか」であるとか、「暮らし、夢、育み」といったキーワード

で、10年後の豊中市の街の将来像がどうあったらよいかということが議論されている。また、環境審議会のほうでも、そういった市の動き、特に環境に大きくかかわることであれば、総合計画や都市計画マスタープランの動きなどは随時報告させていただきながら、市全体でどういうまちづくりをしているというところもふまえてご報告させていただき、環境基本計画はどうあるべきかという審議をしていただければと思う。

○委員

事務局の意見と私の意見が違うので発言させていただく。豊中アジェンダ 21 の策定のなかでも同じような議論があって、このあと高齢者の人口がすごく増えるのであれば、そういう人たちが中心となった環境の取組みを入れたいといけなとか、反対に若い人とかをもっと取り込んでいくのには、そういうところにウエイトを置くような豊中アジェンダ 21 にしないといけななどという意見がある。まさにいま委員がおっしゃったように、豊中の人口動態はどうなっていくのかという議論があって、豊中市もすでに地方創生かなにかの一貫で、人口推計が出されて、すでに公表されている。一時は 30 万都市といわれていたが、実際いまは 35 万か 36 万ぐらいにとどまってしまうような計画を立てられて、市がどういう施策をしたらどうなるのかというシナリオが出されている。また 65 歳以上の割合でも、単身世帯なのかということや、空き家の割合というのも公表されている。例えばそういうことも環境審議会に情報提供していただいて、そのうえでこの環境基本計画の施策についてもなにかそういった特徴を入れていくのか、入れていかないのかということ議論するのが一番よいと思う。

○委員

豊中市のなかではいろんな審議会をやっておられるが、それらの横のつながりはほとんどない。私は産業振興審議会の委員をさせていただいていて、それから、まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会の委員もさせていただいているが、結構相反する中身がある。いまの人口の問題でいうと、まず「豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」で、一応昨年夏に、豊中市は 38 万人をめざそうと規定をされている。それから、産業振興委員会については、とにかく起業、業を起こす、業を増やそうと。それが活力ある豊中に結びついていくのではないかということになっている。豊中市は、さきほど住宅都市とおっしゃったが、工業地帯があり準工業地帯がある。あるいは、飛行場関連の周辺エリアもあるので、豊中市を住宅都市だと位置づけるという総合施策を私は聞いていないし、また以前、豊中が西の鎌倉であるべきというような議論がなされたと聞いているが、それは大昔の話で、いま豊中市の施策は、仕事、企業、そういうものと共生してどうやっていくのかというふうに方針は変わってこられたというふうに聞いている。例えば、産業振興の場合は、もう起業に特化し、あるいは「豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」であれば、人口をなんとか 38 万人にするためにどういう施策があるかという問題に特化されている。また環境審議会は、環境、みどりというのを中心にしている。これらの審議会のみなさんが集まってどうこうするような場面があるとは、私は聞いていないが、一緒にやるということは必要なのか。逆に、そうすると全然前に進まなくなるのか。そういう意味では、もう少し市のほうからいろんな説明があってもよいのではという気はする。

それからもう一つ、さきほどの 10 年後という話に関して、例えて言えば、家庭で子どもたちが「理想的な家庭はこうだ」というようなことを言っても、父親からすると、そんな勝手なことを言っても、お金が問題でそんなことはできるわけがない、という話になる。以前にも言ったが、この環境審議会を含めて、「予算」という問題が取り上げられることがまずなく、10 年後に実行できるかというのは、多くは東京の豊洲問題であるとかオリンピック問題もそうだが、その背景に予算というものが頑として存在するわけ

である。これを全く無視するというか、ふれないままいろんな議論をやって本当にいいのか。あるいは、われわれは予算にふれるのはタブーなのか。そのあたりも、全く議論というか説明がない状態で、理想像だけを進めていくということでは、本当にそれでいいのかというようにも感じる。

○会長

さきほど事務局のほうからお話があったように、行政の計画としては総合計画という大きなものがある。その総合計画に基づいて各個別の計画があって、理屈上は調整ができています。さきほどの委員からは、いろんな行政施策が展開される時に、予算の裏づけが当然必要であり、そういう関係づけのなかで少し説明を、という意見であった。また、もういっぱいいっぱい頑張っているのか、まだやれるのかとか、そのあたりのことも含みながら議論ができたらというご意見だったと思うが、なにか補足があれば。

○事務局

どこまでの情報をこの環境審議会に共有していただいて、環境基本計画について議論をしていただくかということについては、総合計画で市の動きや、都市計画マスタープランというまちづくりの部分、また、さきほど委員から意見をいただいた、例えば人口問題や高齢化についてであるとか、準備できるものは次回の環境審議会までに示したいと思う。

また、さきほど委員がおっしゃった予算というのは、市として受け止めさせていただくが、審議いただくときに、予算に縛られるとみなさんの活発な意見交換ができないこともあるかと思う。さきほど委員がおっしゃった、10年後、20年後というところも見据えながら、まずこの10年でどういった目標を立てるかというときには、当然裏づけとして、積み上げが必要と考えているが、そのなかで予算がどう取れるかというところを示すのは、現在難しい。環境審議会でご審議いただいた内容に基づいて、どう施策としてやっていくかを検討して予算を取っていく場合もあるし、NPO法人とよな市民環境会議アジェンダ21と協働のなかで温室効果ガスの削減であるとか、いろいろな目標に向けて動くことも考えていくので、現段階で10年間こういう予算でこれぐらいの規模でというのはなかなか市としては示しにくい。

○会長

さきほど説明があった、参考4（推進部会での意見と指標例）は、環境基本計画推進部会が出た中身で、みなさんにご意見を伺えたらと思うが、一つは目標と評価指標の関係というところが重要である。いま、環境目標があって、環境審議会の評価があって、評価を得るために要因分析を行っている。要因分析のために「アウトプット指標」がある。具体的に行政がやっているのがインプット（目標のために取り組むこと）で、もう一つ「アウトカム指標」（取組みの成果に関する指標）というのが出てくる。基本的に、これからの指標のあり方として、環境目標を設定して、そのためになにをやったかというインプットをまず明快に整理しておく必要がある。それから、要因分析では、インプットに対して具体的な成果としてこういったことが達成された、ということを位置付けたらどうか。それによって、市民が環境に対して非常によくなったと感じたとか、あるいは、なにかほかにも取り組むようになったとか、例えば、水質の数値がよくなって非常に透明感が出てきたとか、そこで遊ぶようになったとか、自然とふれ合うというようなことが成果として出てくることになる。そういうものを「アウトカム指標」というかたちで捉えていったらどうか、こういった指標の構造を再構築したらよいのではないかという意見が出た。

また、そういうものに基づいて、目標1から目標5まであるうち、目標1のところは

協働型云々というかなり高いレベルの話なので、参加のレベルでは、情報収集が必要じゃないかとか、あるいはNPO 法人与よなか市民環境会議アジェンダ 21 の市民活動の成果をうまく反映するようなかたちが取ればよいのではないか、というような意見が出た。このあたりも少しご意見いただけたらと考える。

それから、さきほども話があった目標 5 については、いろんな環境基準があるなかで、騒音問題でいつも全体として「×」がつくが、これも少し分野別に分けて、状態の変化が個別分野ごとに分かるような方向づけを考えるのもよいのではないかというような意見が出た。このあたりについてなにかご意見あればお願いしたい。

○事務局

資料 2（現行計画における環境目標及び指標の課題整理）の説明をして、環境目標を含めたご議論をしていただければと考える。

○委員

環境基本計画の上位計画に総合計画がある。そのなかで、いまどういうまちを目指していくのかという部分もできつつあるということだが、その総合計画がどういう内容なのかということについては、全くこの環境基本計画のなかには書かれていないのか。ぱっと見た感じでは、連動を図っていくような記述はあったが、総合計画としてどういう方向をめざしていき、その背景になにかあったのかという記載があると、より連動が図りやすいのではないか。この環境基本計画が、総合計画と連動しているというふうには見えにくいと感じた。

○事務局

今日資料を準備できていないが、現行の環境基本計画の 5 つの柱は、すべて現行の総合計画の第 4 章に丸々位置づけられている。委員がおっしゃったように、時代背景を含めて、どういうまちをめざすかという議論が、いま新たな総合計画の策定のなかで並行して行われている。そういった情報を提供させていただいて、総合計画ではどうかたちで環境についてうたっていくかを環境審議会でお諮りし、総合計画に盛り込んでいくという方向である。

○委員

総合計画に書かれていることが環境基本計画にも入っていたほうが、より連動感が出るのではないか。

○事務局

総合計画や都市計画マスタープランは関連が深いので、それらの計画が環境基本計画にどのように連動するかという見せ方は検討したい。

○委員

その背景の部分も記されていたほうが、より分かりやすい。

○事務局

補足説明をさせていただくと、現行の環境基本計画の 7 ページのほうをご覧ください。ただ、市の計画というのはすべて総合計画を最上位計画として、それぞれ分野別の計画

を策定して、さまざまな施策を展開している。現行の「第3次豊中市総合計画」は、平成13年度から平成32年度を計画期間としており、計画のなかの第4章で、「環境と調和し共生するまちをめざして」という、将来像に向けた施策として、総合計画の施策体系に環境分野が位置づけられていて、この第4章を具体化、具現化するために現行の環境基本計画があるということになっている。もともと豊中市は、総合計画については20年計画で立てていたが、最近時代の流れが早いので、20年の長期スパンではなかなか変化に対応できないということで、32年度までの現行計画について、平成30年度スタートで、平成39年度までの10年間を計画期間として、前倒しで現在見直しをしている。

第2回の環境審議会で、参考資料2（第3次豊中市環境基本計画策定に向けて）で示したように、「第4次豊中市総合計画基本構想」というのを、政策企画部で策定中である。いまの段階では、その平成39年度のまちの将来像に向けての基本的な考え方として、施策体系のなかの「活力ある快適なまちづくり」、このなかで環境分野について記述がされる予定である。それに基づいて環境基本計画を見直していこうということで、ちょうど同時並行的に総合計画の見直しもやりながら、この環境審議会で環境基本計画の見直しもご審議いただいている。そのつど、総合計画の動きも委員の方々にお示しをしながら、連動するようなかたちで環境基本計画を策定したいというのが私どもの考えである。

○委員

計画として連動しているということは7ページで見えるが、どのあたりがつながっているのかというところがより分かるとよいと思い、意見させていただいた。

○委員

おっしゃったことは大変重要なことで、環境分野の個別計画があって総合計画がある。総合計画のほかの1章、2章、3章というところに、環境基本計画など縦割りの分野別計画がそれぞれあるわけで、総合的な施策が必要なものを総合計画にも反映させていくということが極めて重要である。例えば「活力ある快適なまちづくり」のなかで、企業であるとか商売であるとか、活気のあるまちづくりをしましょうということであれば、今日配られたエコショップのような試み、コーポレートガバナンスみたいなことをどう入れていくとか、商店街を活性化していくなかで、環境にもよいことを取り組んでもらうとか、そういうくさび型になることをきちんと総合計画にも反映してもらおうという調整をやってもらえるように、環境審議会からも意見を出していくということが非常に重要である。昔の総合計画は、道路などハードのことばかりが中心だったが、いまは文化やソフトのこともある。そのソフトの部分と、それから、そういう道路とかハードの部分についても、きちんと環境に配慮したかたちでなされるようにというくさびを打っていくことが、総合計画の基本的な役割である。それがなされるように、こちらからも積極的に意見を出していくということが重要である。

またさきほど予算の話があったが、これが豊中市の特徴的なところなので言わせていただきたいが、現行の環境基本計画の66ページを見ていただくと、通常他市の環境基本計画は予算との連動がないところがほとんどで、環境基本計画に書いてある施策についても、これに予算がついているかという、なにもついていないというような、絵に描いた餅みたいなのがいっぱい並んでいる市があるのに対して、豊中市はそれではいけないということで、PDCAのサイクルのなかで、毎年の評価を、予算に反映させられる時期にやっている。そのなかで、今までできたこと、できないことというのを見て、できなかったことについてこういう施策が必要ということであれば、次年度の予算に反映させていきたいと思いますということをやってきた。この点については、豊中市がすごく一生懸命に、全国でも珍しく、予算のことを考えてやってきたといえる。実際に予算が取れるかどうかはまた別問題だが、仕組みとしてはそういうふうな仕組みになっていたと思

う。

○会長

なかなか行政のほうからは言いにくいかと思うが、PDCAのサイクルにおいて、毎年2回の報告書を出すというのは、ほかの自治体ではやっていないということと、それから、さきほど評価のシステムのところで言ったが、要因分析をして施策を評価しようというのを、非常に、ある意味では画期的なやり方でやっているということも補足しておきたい。

さらに、現行の環境基本計画の7ページのところでは、環境基本計画というのは、やはり横串の計画だということで、ここにもそういう概略図が描いてある。そういう意味でいうと、さきほどあったように、一つの章だけに対応するのではなくて、ほかの章にどういうふうに関連づけられているのかを、環境審議会のなかでも整理をしておいて、総合計画との連携、そこへの反映ということを意識しておきたい。

○委員

現行の環境基本計画の表紙にもある「環境リーディングシティとよなか」というのが、「私たちの目標」となっているが、なにがリーディングか、なにが進んでいるかというのがよく分からない。要は、なにを進めるかという説明が足りていなくて、さきほどの委員がおっしゃった将来像を作るにあたって、例えば国の基準はこうだが、それは置いておいて豊中ではこういう将来をめざしているなど、もう少し環境リーディングシティというのを説明していただきたい。第3章の冒頭にポンと出てくるが、説明が見当たらない。審議会に参加していたら分かるが、冊子単体で見たら分かりにくいなという思いがある。

○会長

そのあたりは、市民の方に分っていただかないといけない。

○委員

なにがリーディングかというのは、基準がないので説明を書けたらよいと思う。さきほどの、10年後なのか将来なのかということも同じである。

○会長

さきほどの目標像のあたりで、いま委員からご指摘のあったようなことをふまえて検討していきたい。それでは、具体的な資料の説明をお願いしたい。

○事務局

さきほど会長のほうから要点のご説明があったが、詳しくご説明させていただきたい。
(資料2(現行計画における環境目標及び指標の課題整理)に基づき説明)

○会長

それでは、目標に対する評価指標等についてご意見いただければ。

○委員

まず資料2(現行計画における環境目標及び指標の課題整理)の目標1の市民参加だが、いろんな自治体の市民参加に関する自己評価の書類を見せていただいたことがあるが、なかなかうまくいっている例がない。ただ、大事なのは関心の高い方が一生懸命やっておられる活動と、普段そんなに関心のない方がどれくらい参加したかは、分けて評価する必要があるということである。豊中市の場合、一生懸命、環境報告書「とよなかの環境」を作っているのだから、「とよなかの環境」を見ていただいた人数を評価指標にしてはどうか。

それから、温室効果ガスについては、書かれていることはもっともだが、電力の自由化の影響でどれくらいデータが取れるかはっきりしていなかったのが、大体市町村単位でどのようなデータが得られるかが見えてきたので、それをふまえてまた今後検討したいと思う。

目標5についてだが、資料2(現行計画における環境目標及び指標の課題整理)の後ろについているA4の図と、さきほど会長が言われた参考4(推進部会での意見と指標例)の図と微妙に違うが、低炭素社会づくりの取組み効果は、その年中にはなかなか出てこなくて、例えば省エネ診断をして冷蔵庫を変えましょうといっても、その年に変える人はほとんどいなくて、2、3年後にお金に余裕が出てきたときに買うことになる。そうすると、ここは、取組みと得られる数値は別々に評価しないとイケない。これまでの「とよなかの環境」では、評価指標を受けて「○」とか「×」とかが目立つように出てくるが、それに対して豊中市がなにをしたか、ということが大事ではないか。そういう意味では、審議会からの総合評価というところがもっと重要視されてもよいのではないか。それは我々にすごく大きな責任がかかってくるけれども、場合によっては「○」「×」でやるのだったら、環境審議会で投票してもよいくらいだと思う。そういうことで、いわゆる状態に対する評価指標と同じ重みを、環境審議会からの総合評価に付けることによって、どのような政策、取組みをするのが大事だということを前に出したほうがよいと考える。

○会長

いま委員から非常に大事な指摘があったが、いわゆる政策に対する評価も非常に重要ではないかということである。

○委員

一つ、会長がさきほどおっしゃったアウトカムの話だが、最近はNPOが助成金を取る場合でもアウトカムを書かないと助成金がもらえない場合があり、だいぶ認知されてきている。しかし理解するのが難しく、例えば温室効果ガスにしてもみどり率にしてもそうだが、その取組みの成果として、温室効果ガス20%削減だとか、みどり率27%だとか、いろんな取組みをしたことに対して数字が出てきて、そのことが直接アウトカムではないかと思う。なので、改めてこの大目標以外にアウトカムを個別に精査して、詳細に設定する必要があるのかと思うところがある。いろんな最終到達点がアウトカムを表しているという考え方があるのではないか。

もう一つ、事務局が参考4(推進部会での意見と指標例)で出されたアウトカムの把握として、イベント等でのアンケート調査で把握するというのがあるが、片や今日の資料2(現行計画における環境目標及び指標の課題整理)のなかでは、既存の市民意識調査を指標としているものが2種類あって、結局どちらも「△」がついている。要は、評価の指標として市民意識調査ですら適当でないと考えているのに、各イベントで取る普通のアンケート調査で、それでアウトカムを測るのは適当ではないと思う。それよりは、もしアウトカムというのを明確にしていくのであれば、数値や量の問題もあると思うが、そこはなにか数字で測っていく必要があるのではないか。

またもう一つ、市民の行動計画を作っている立場からいうと、環境目標というのは、市民の行動計画でも共有している目標になるが、例えば温室効果ガスとかごみとか、みどりというのは大目標があって、それに対して行政としていろんな取組みをやって達成する。片や市民もいろんな取組みでそれを達成する。一つの目標に向けてそれぞれお互いに取り組んで、それぞれが目標をめざしましょうということができる。しかし、パートナーシップについては、そもそも立ち位置が違うので、同じ目標で両方を共有できるかどうか。資料 2（現行計画における環境目標及び指標の課題整理）で、パートナーシップには、行政の立場でもいくつかの側面があると思うが、それを混ぜこぜにして今みたいにボンと評価指標に入れてしまうのがどうなのか。市は市民活動を支援するところが主だから、環境基本計画には、いかに支援できたかとか、こういう状態がありましたよということの評価して、一方で市民の計画のほうでは、市民がいかにパートナーシップの取組みをやったか进行评估する。パートナーシップにいくつか段階があるのであれば、目標 2 以降は共有しているが、目標 1 については、少しそこは違いがあってもよいのではないか。

○会長

このアウトカム指標に対するご意見とか、それからパートナーシップについてもご意見を伺ったが、なにかこのあたりに関連してご発言があればお願いしたい。

このアウトカム指標についてだが、みどり率 27% といった数値目標がアウトカム指標というのは、それはそれで異論がないところである。事務局の提案は、結果としてそれがどういうふうになるのか、あるいは市民の新たな行動とかに反映しているのだろうかという側面の評価もあってもよいのではないかと、そういう意味合いである。だから、27% をめざして具体的な施策があって、具体的にそれをめざして一定程度達成された部分があるので、それは数値目標に対しての取組みとしては把握できる。ただ、それは数値目標としての成果ではあるが、一方で、市民にどういうふうにつながっているのか、市民はそれをどのように意識しているのかなど、そういう質的な側面の把握もやはりこういう取組みの評価としてはあってもよいのではないかと。意識評価として捉えましょうというような話と、具体的な数値として捉えましょうという話が、これまでやや混在していた部分もある。

○委員

おっしゃっている意味は分かるが、そうすると環境基本計画とはなにをするための計画かということになる。要はこれが、市民の環境への理解を深める計画だとか環境の啓発を進めるための計画であれば、おっしゃることがアウトカムなのだと思うが、そうではなく、現行の環境基本計画のなかで本当に達成すべきは温室効果ガス、ごみの量、みどり率などの数値である。だから言葉の定義の問題だと思うが、市民の意識の変化といったものをアウトカムと呼んでしまうと、どこが本質なんだという話になると思うので、会長がおっしゃることをそれぞれの項目に盛り込みましょうという、そういう側面もあるのではないかとということによいかと思う。

○会長

項目というのは評価指標のことか。

○委員

参考 4（推進部会での意見と指標例）でいうと、一個一個にアウトプット、アウトカムを設定していくと、じゃあなんでこれがアウトカムなのだという話になる。指標の一つ

に市民がどれだけできたか、どれだけ理解が深まったかという項目があってもよいと思うが、それをアウトカムと呼ぶと異論があるのではないかと思う。それに、例えばさきほどの委員の例で、省エネ診断をやって2、3年後に買い換えてという話でいうと、逆に先に意識を変えろという話になる。省エネは大事だといって、その意識を持ち、理解をしたから買い替えるという結果が出るわけなので、そこで最後に市民の理解があったわけではないので、アウトカムではないのではないか。どっちかいうと、インプットの側でその普及啓発をいっぱいするから最終的に効果が上がってくるわけなので、それを側面、違う切り口で評価しているだけである。そういう捉え方をすると誤解が起きるので、どんどんインプットしていったりする取組みは、件数だけではなくて、それに対して市民がどれだけ理解したかとか広がったかということ、その切り口で見ましようということだけでよいのではないか。なまじアウトカムという言葉を使うと、議論が生まれるのではないか。

○会長

この図が非常に誤解を生んでいるのではないか。インプットという指標が間違いなくあって、それから量的な指標の達成と市民意識の変革というものがある。だから、アウトプット指標とアウトカム指標を併記という概念で、いわゆる評価指標をそういった2つの側面で整理しなおすということによいか。

○委員

アウトカムとかアウトプットとか、少なくとも表現の定義はいらぬのではないか。分類は必要だが。

○委員

アウトカムをなにで測るかが難しい。両輪をどういうふうに相乗効果で達成していくという問題も絡むかもしれないが、アウトカムは「望ましい環境像」のこんなまちづくりができましたというふうに繋がっている。それをなにで測るかという、アンケート調査ではしっくりこないというご意見ではないか。

○委員

去年の予算はどれだけ使われたかという、結果の数値の情報を少しでも提供していただいたら、少しは具体的な数値というものの裏づけをもとにしていろんなことが考えられるのではないか。金額とか数値を全く白紙の状態で議論をなささいと言われていたような感じがあって、こうしたことは会社経営ではあり得ない。さきほどの航空機騒音に関しても、これは非常に難しい問題なのかもしれないが、「×」ということはどういうことなのか、要するに、飛行場をどこかへ持っていくことを求めているということが背景にはあるのかどうか。それは最終的には市民が決めることなのだろうし、大阪府知事が空港機能を関空のほうへ全部持っていけばよいのではということに対しては、市民を含めて多くの方々がノーを突きつけたわけだが、この環境審議では「×」が続き続けているというのは、どう考えるのか。このままの状態が続くのはよろしくないのではないか。

○委員

まず前者のほうはすごく重要なことで、投入した予算に対してどれだけの成果が上がったかということだが、それに関しては施策の評価制度というのが別途ある。それについて

ては、その施策が必要だったのか、有効だったのか、効率性はどうかという三つの観点で評価している。豊中市は施策・事業評価をやっていると思われるので、そのご説明をいただくのがよい。それから環境基準に関しては、環境基準というのは、環境基本法のなかで定められているもので、政策目標として設定されていて、政策目標というのは健康と生活環境でなにが望ましいものかということに関して科学的な知見をふまえて設定されているものである。例えば、基地のそばに住んでいる人が、基地は必要だから健康被害を受けてよいということにはならない。空港があるということと、そのことの影響に関して法的な基準があるということは、切り離して議論したほうがよい。したがって、環境基準を達成しなくてもよいという議論はないと考える。ただ、いま「○」「×」で見せるというかたちになっているので、「×」だと全部十把一絡げに「×」みたいになってしまうので、それはいかがなものかということには分かる。いま、空港があるから全部「×」みたいに見えるが、実は幹線の道路ゾーンの騒音も「×」であって、ほかの達成できていない部分が見えていないので、そこをどう見せていくかという問題もある。

○会長

「○」「△」「×」というこのやり方というのは、市民の方には非常に分かりやすいということで導入された経緯があったように記憶している。

○委員

私も目標5にはいつも引っかかっている。例えば、そのために市ではこういう対策を練っているとか、航空機ゾーンについてはこういうことをしているとか、そういうことが一つも書かれてなくて「×」となるのは当然である。こういう対策もしている、あるいは大気汚染についてはホームページで知らせているとか、もし予報が出るのだったらそういう予報を出すとか、もう少し先が見える、市民が安心できるようなこういう努力もしているし、市民にそういう努力に参加してほしいというような言い方ができないか。何%というのも、例えばごみの減量20%できましたとか、これが目標ですと言っても、20%が果たして自分の家にとってどの程度の量なのかというのは全く分からない。例えば、100グラム減らしたら何年後に達成できるとか、市民が直感できるような具体例があると響いてくるのではないか。「○」とか「◎」が書かれていると、もうこれでよいのだという思いになりやすく、逆に「×」が書いてあると、なんで「×」なんだろうと考える、それが一般市民ではないか。ここに参画している方とか行政の方たちは、何%ということにすごくこだわるが、そうではなくて、もっと見えやすいかたちにしていきたい。指標がどうか、アンケート調査の結果がというのもおっしゃるが、例えば今日配布された資料で環境フォーラム、減量フォーラム、みどりのフォーラム参加者の数とあるのも、いつも同じ顔ぶれだったり、決まった団体の参加者だったり、あるいは行政の方だったり、限られたメンバーの可能性もある。広く市民がそういうものを知っていて参加しているかということ、必ずしもそうでないと思うので、市民にも伝わりやすい、分かりやすい、見えやすい、そういうかたちのものにならないか。具体的にどうしてよいか分からないが、そういうものがあるともっと市全体として「○」の方向に向かっていけるのではないかと考える。

○会長

市民感覚というのは、いつもいろいろ考えながらやっているつもりだが、なかなか伝わりにくいというのがある。そのあたりは前向きに取り上げていかないといけないと思う。さきほど委員から、市民参加の評価は、関心のある層とない層に対してというようなお話があったが、いまおっしゃったように、ない方をいかに引き上げていくかが重要である。評価指標のあたりで、少し具体的にどこにかそういう評価結果が伝わるような工夫が必要でないか。

○委員

一人お茶わん一杯分のごみを減らしませんかとか、週に一回車に乗る量を減らしませんかとか、なにか一行でもヒントみたいなものがあつたら、これなら参加できるという市民が一人ずつ増えていかないかという期待もある。

○会長

ほかはないか。

○委員

いまの話にも出たが、無関心層の方がどう啓発されていったのかというところが、豊中市が力を入れるべきところではないか。すごく熱心な方は熱心にずっと活動をし続けているが、なかなかすそ野が広がっていかないというところがあるようにも感じるがデータがない。

なんらかの形で、環境系のイベントに参加するのは初めてですかとか、2回以上参加されたことはありますかとか、無関心層を巻き込んでいけているかを示すような指標があつてもよいのではないか。

○会長

すそ野が広がっているかどうかを判断できる指標を、今回は入れる方向で考えていただきたい。

○事務局

さきほどの予算の関係では、毎年市のほうで政策評価を行っているので、環境部の分の評価を含めて予算を提示し説明していきたい。

○会長

ほかはいかがか。

○委員

資料2（現行計画における環境目標及び指標の課題整理）の評価指標の上から2段目、「ISO、EA21等環境マネジメントシステムを取得している市内事業所数」のなかで、自社で取組みを進めている事業所の実態把握が困難云々という件があるが、困難なのか。私はこういうアンケートは記憶がないが、アンケートを取っても全然返事がないとか、正確な回答がないとかそんなことか。

○会長

このあたりは、分からないからやめましょうという問題ではない。

○事務局

ISO と EA21 の数については事務局のほうで把握できているが、更新のために費用が掛かってくることもあり、ノウハウを持っている事業所は独自で環境マネジメントをやられていて、その把握が困難であり、市内全域の事業所に確認するという手法が取れていないので、そういう表記をしている。

○委員

それを隠す理由は特に企業側としてはないと思われる。問い合わせが正式であればオープンにお答えできる。私は商工会議所の代表で出てきているが、商工会議所で比較的容易にこういう数値は出せると思われる。

○事務局

当初は市内全域の事業所へのアンケートを想定していなかったもので、商工会議所を通じてという想定もなかった。

○委員

減っているのか。

○事務局

母数すら把握できていない。事業所へ環境マネジメントを実施しているか把握する手法が確立しておらず、把握できかねる。

○委員

それこそ、会社の持続可能性が厳しく問われる場面が増えているので、私の感覚では増えているような気もする。

○事務局

実際は、それぞれの事業所で省エネなどいろいろな取組みをされていると思う。具体的に環境マネジメントという形で書類を作っているかは別にして、取組みはされていると思う。

○委員

もう一つ民間との交流をあまり積極的にされてないので、調べるのが難しく見えるのではないかと。本気で調べたら、いろんな取組みを各事業所、企業はやっているように思う。

○委員

いまのお話はとても重要なことで、商工会議所でご協力いただけるという積極的なお話であるから、ぜひよろしく願います、ということにしてはどうか。

○会長

非常に重要な問題である。

○事務局

商工会議所を所管している部局とも調整させていただき、改めてお話しさせていただきたい。

○会長

また事務局のほうで整理していただいて、再検討するということで進めていきたい。今日のところはこれで。次に、その他の案件、スケジュール等について。

議事内容

2. その他

○事務局

(第3次豊中アジェンダ21策定委員会の進捗状況及び、子どもワークショップの実施状況について報告)

○会長

これで環境審議会を終了させていただく。長時間にわたりご審議いただき、どうもありがとうございました。